

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAY ORI



小樽商科大学広報誌

vol.200

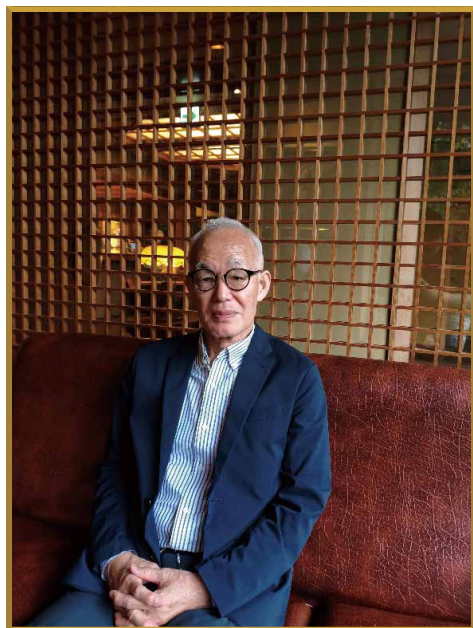
2026 AUTUMN

小樽商科大学 学園だより

● CONTENTS ●

公益社団法人 緑丘会の紹介.....	1
カフェ経営を通じた実践的学び.....	2
地域を盛り上げる三大学学生交流事業.....	3
本学学生団体への応援イベント参加のお願い < Giving Campaign >.....	3
新寮長の紹介.....	4
悩んでいる人に気づき、その声をきいてください...	4

留学体験記.....	5
「聞くビジネススクール」	
Audible Business School はじめました.....	5
北海道のどこにいても生涯にわたり	
上質な学びに出会える.....	6
新任教員の紹介.....	7



公益社団法人 緑丘会の紹介

公益社団法人緑丘会 常務理事 事務局長 齊藤 基 (1980年卒業)

学生の皆さん、こんにちは。令和8年6月より公益社団法人緑丘会の事務局長を務めることになりました齊藤基(さいとう もとき)です。この機会に緑丘会の活動をご紹介しますとともに、私から皆さんへメッセージをお送りしたいと思います。

私は1980年に小樽商科大学を卒業しました。在学中は硬式庭球部に所属していました。仲間とともに目標に向かって努力し続けた経験は、その後の社会人生活においても大きな財産となりました。大学時代に築いた友情や挑戦の経験は、一生の宝物です。皆さんもぜひ勉学とともに、クラブ活動やサークル活動などにも積極的に取り組み、多くの経験を積んでください。

さて、緑丘会は小樽商科大学卒業生による同窓会組織であり、85年以上の歴史を持つ公益社団法人です。「小なれど固い絆の同窓会」を合言葉に、大学や学生への支援、卒業生同士の交流促進など幅広い活動を行っています。

緑丘会の活動の第一は、学生のキャリア形成と就職活動への支援です。毎年250社程度で開催される「緑丘企業等セミナー」では、多くの企業・団体にご参加いただき、学生の皆さんに企業研究や業界研究の機会を提供しています。また、商大OB・OGによる就職相談室を設置し、進路や就職活動に関する相談にも応じています。

第二は、大学および学生への資金助成です。TOEIC IPテスト受験費用への補助、エバーグリーン講座の支援、緑丘祭への助成、就職活動資金の無利子貸与など、公益財団法人小樽商科大学後援会を併せて年間2,000万円程度の助成を行い、学生生活を支えるさまざまな支援を行っています。

第三は、卒業生による教育支援です。エバーグリーン講座やグローバルマネジメント関連講座への講師派遣を通じて、実社会で培われた知識や経験を学生の皆さんに伝えています。

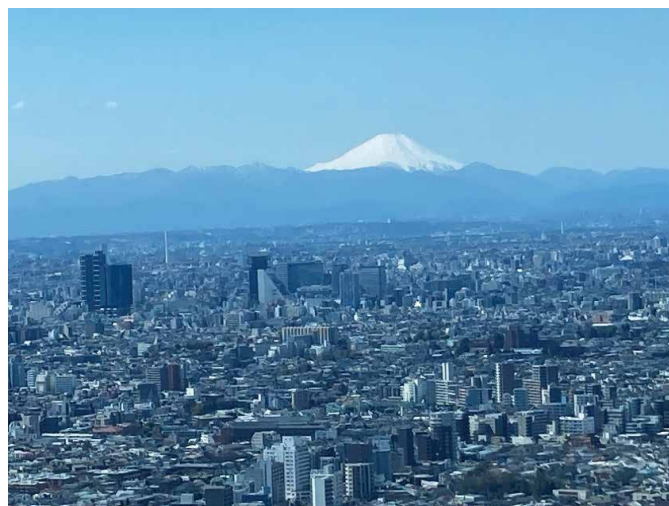
卒業後には全国各地にある24か所の支部活動を通じて、多くの同窓生との交流が待っています。講演会や懇親会、ホームカミングイベントなどを通じて世代を超えたつながりが生まれています。同じ小樽商科大学で学んだ仲間とのネットワークは、社会人になってからも大きな力となることでしょう。

大学生活は人生の中でも特別な時間です。学び、挑戦し、仲間との絆を深めながら充実した学生生活を送ってください。そして卒業後はぜひ緑丘会を活用し、まずは同窓生とのつながりを広げていただきたいと思います。

東京へ来られる機会がありましたら、池袋サンシャイン60の57階にある緑丘会館にもぜひお立ち寄りください。皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。



池袋サンシャイン60ビル外観



緑丘会館からの眺望

カフェ経営を通じた実践的学び

本学構内で商学・経済学・企業法学という学びを実践の場で体現し、カフェを運営している大学公認サークル「経営研究サークル Drip」を紹介します。今回は、代表を務める藤田 富夢さんにお話を伺いました。

サークルの紹介と設立の経緯を教えてください

このサークルは「ビジネスをもっと身近に」をテーマにカフェの経営やビジネスに関わる活動に取り組み、経営を学ぶサークルとなります。サークル設立当初から所有していた運河沿いの「嶋谷カフェ」の経営に加え、小樽商科大学構内の大学会館内のスペースをお借りして「cafelab」というカフェを2025年度から経営しています。

さらに、大学や小樽市内の企業様との共同プロジェクトにも取り組んでおり、Drip は学生がマーケティング活動を実践で学ぶ場として運営しています。



授業で学んだ知識が、カフェの運営のどのような場面で活かされていますか

商品企画や広報活動の設計などに活かされる場面は非常に多いです。小樽商科大学では一年生からマーケティングや経営学の基礎的な授業を受講出来るため、私自身一年生のうちから授業で学んだ理論をベースに企画会議で提案をすることが出来ました。また、カフェの財務面は、大学公認サークルの簿記会計サークルと連携しながら、会計学系の授業や資格勉強で学んだ知識が発揮されています。

利益だけでなく、学生団体として大切にしている価値は何ですか

学業優先は徹底しています。ビジネスに関する活動は難しい反面やりがいがとても大きく、利益追求を優先しやすい性質があるため、時間を費やそうとすればいくらかでも費やせてしまいます。しかし大学生はあくまで学業に専念するポジションにありますので「授業を疎かにして取り組む」ことは無いよう心掛けています。

また、大学会館でのcafelabの営業を始め、小樽市内の企業との共同プロジェクトなど、大学の職員様や先生方、ステークホルダーである企業の方々からは、いつも活動へのご支援を頂いております。皆様への感謝を欠かさず、このサークルが小樽商科大学や小樽市の魅力となるよう日々活動しています。

リーダーシップや組織運営について学んだことを教えてください

「権利と責任をセットで適切に分配する」。これがここ最近での一番の学びです。代表になった当初は「リーダー」ということもあり何でも自分で抱えて自分が主導で進めていました。つまり、権利と責任を独り占めしていたのです。「他のメンバーや幹部に忙しい思いをさせたくない」という善意の気持ちだったのですが、この行動は間違いでした。私が活動を抱え込むということは他のメンバーの成長の機会を自分が独り占めしていることでしかありません。その反省を経て、まずは幹部に対して権利と責任の分配を行いました。また、今年度は素敵な新入生が多く所属してくれたため、やる気がある構成員には幹部のサポートの下、企画やプロジェクトの責任ある業務を積極的に任せています。

この活動は将来のキャリアにどのように役立つと感じていますか

このサークルではカフェ経営という小規模ではありますが経営活動の実践経験を積むことができ、その際、目にするのは「価値が生まれる瞬間」です。自分が企画に携わった商品が売れる。自分が企画したイベントに人が来る。自分が手掛けた内装に喜ぶ人がいる。そこで我々はお客様からお金を頂き、そのお金でさらに価値を生み出します。

企業は同じように様々な「価値」を生み出しており、その規模は更に大きく、この仕組みに大学生のうちから触れることでキャリアを考える際の選択肢や自分なりの価値観が大きく広がります。

イベント企画がワクワクするな。SNSでの広報活動が楽しい。店舗で直接お客様の顔を見るのが好きだ。商品開発なら没入できる。等々、自分がどんな手段で価値を生むことに「ときめけるか」を大学生の早いうちに経験できます。

その過程で、「自分の力で一から価値を生み出したい」と考え起業を志すこともあるでしょう。私自身、このサークルでビジネスという概念を知り、将来的には地元で起業したいと考えるようになりました。

就職活動に関わらず、大学生のうちに視野が狭くなってしまうことは非常に勿体ないことだと私は考えています。その観点で見るとこのサークルでの活動には大きな意義があると私は誇っています。



地域を盛り上げる 三大学 学生交流事業

令和4年度に小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学が統合し、北海道国立大学機構が設置され、分野融合的な教育プログラムの開発のみならず、学生同士の交流事業にも力を入れております。本号では2025年度畜大祭(帯広畜産大学大学祭)での三大学共同出店の様子を緑丘祭実行委員会委員長の佐々 颯汰さんに紹介いただきます。

私たちにとって、本事業は、大学の垣根を越えたネットワークを構築するとともに、学生同士の交流を深める貴重な機会となりました。

共同出店では、小樽商科大学は揚げ餃子、北見工業大学はホタテバターを販売し、お互いの店舗運営を協力しながら進めました。その中で、各大学の大学祭運営や学生生活について情報交換を行い、新たな視点や気づきを得ることができました。また、3大学が連携して大学祭を盛り上げることで、多くの来場者に楽しんでいただき、地域のにぎわいづくりにも貢献することができました。

一方で、共同出店は前例のない取組であり、地理的な距離から打ち合わせは主にオンラインで実施したため、企画や役割分担の調整、準備スケジュールの管理には苦労しました。また、帯広まで運搬できる物品に限りがあり、必要な備品の準備方法についても工夫が必要でした。

今回の事業を通して、大学ごとに実行委員会の規模や運営方法、抱える課題が異なることを知り、自大学の大学祭運営にも活かせる多くの学びを得ることができました。今後もこのつながりを大切にし、情報共有や交流を継続することで、より魅力的な大学祭づくりと地域の活性化につなげていきたいと考えています。



本学学生団体への応援イベント参加のお願い

＜ Giving Campaign ＞

GivingCampaign とは

GivingCampaign とは、全国の学生団体(サークル・部活)が参加し、自らの活動の意義や目標を社会に発信し、特設サイトや SNS 等を通じて投票や寄付の呼びかけを行う学生主体による資金調達イベントです(2025 年度イベント実績：2,800 の学生団体が参加、80 万人からの応援、総額 1.6 億円の寄付)。

一般参加者は、応援したい団体を選んで投票(応援メッセージを送る)し、その得票数に応じて企業からの協賛金が学生団体に分配される仕組みをとり、投票後には任意で個人からの寄付を行うことも可能です。



投票からの寄付・応援の方法

本キャンペーンへの参加は、学生にとってはサークル・部活動の大きな励みとなりますので、是非応援、ご寄付をいただけますと幸いです。今年度は10月16日(金)から10月25日(日)の10日間で開催します。

右記の QR コードから専用サイトにアクセスいただき、ページ内から小樽商科大学のロゴをクリック、応援したい団体を選択いただくと、応援・寄付(任意)いただけます。





学生寮「輝光寮」は、「学生生活の安定と修学に適する環境の提供、共同生活を通じた人格形成、社会性の獲得、同窓意識の高揚を図ること」を目的としており、居室9室と共同スペースで一つのユニットを構成し、全体で10ユニットを設け、男子・女子がそれぞれ別々のユニットで生活しています。寮生活を送る学生の自主性と主体性を尊重するため、各ユニットをまとめるユニット長、寮全体をまとめる寮長を置いています。

令和8年度より新しく寮長を務めることとなりました学生を紹介します。

自己紹介をお願いします

商学部社会情報学科2年の宮田貫司(ミヤタ カンジ)と申します。兵庫県出身で、入学と同時に輝光寮に入寮しました。体育会ヨット部に所属しており、勉強と部活動の両立に日々励んでおります。

寮長に選ばれたときの率直な気持ちはいかがでしたか

正直、驚きと緊張が入り混じった気持ちでした。現在71名の仲間が暮らすこの寮を束ねる責任の重さを実感すると同時に、信頼して選んでくれた寮生への感謝と、この経験を成長の糧にしたいという前向きな気持ちも湧いております。

あなたにとって、この寮の魅力はどのようなところですか

輝光寮の名前は「北に一星あり、小なれどその輝光強し」という本学の精神に由来しています。全国各地から志を持って集まった仲間たちの熱量こそ、この寮最大の魅力です。個室とオープンリビングが共存する環境で、ひとりの時間も仲間との時間も大切にできます。また、大学まで徒歩3分という立地も、北海道の冬には大きな強みです。

寮生活を通して自分が成長したと感じる点がありますか

生活の自立はもちろんですが、異なる学年・出身地・価値観を持つ仲間との共同生活のなかで、相手の立場を想像して行動する習慣が自然と身につきました。

寮長として挑戦してみたいことはありますか

例年に続く緑丘祭への出店など、学年を超えた交流イベントをさらに充実させ、寮生全員が充実した寮生活を送れる環境をつくりたいと考えております。また、大学構内に位置する施設の強みを活かし、学内の研究や取り組みとのコラボレーションを通じて、輝光寮が実験・先進事例の場として大学全体に貢献できるような新しい挑戦にも取り組んでまいります。

寮運営で大切にしたいことは何ですか

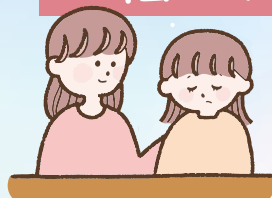
寮生一人ひとりの声に耳を傾ける傾聴力と、固定観念にとらわれない柔軟な姿勢を大切にしたいと思います。

寮生保護者の皆さまへメッセージをお願いします

大切なお子さまを送り出してくださり、ありがとうございます。お子さまが安心して学業と人間的成長に打ち込めるよう、寮長として全力でサポートしてまいります。



悩んでいる人に気づき、その声をきいてください



近年、経済状況の悪化や就職活動の早期化による大学生のメンタルヘルスの悪化が報告されており、対策として、周囲の人によるサポート【ゲートキーパー】が注目されています。

ゲートキーパーは特別な資格や職業を必要とせず、家族、友人、同僚、地域の人など、誰でもなることができます。自殺のリスクがある人に①気づき、②寄り添うように話を聴き、その上で③必要な支援につなぎ、④見守るという4つの大切な役割があります。

①気づき：家族や仲間の変化に気づいて、声をかける

「最近、眠れている?」「疲れてない?」

②話を聞く：本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける

「悩みがあるなら、よかったら話して」「つらかったね」「大変だったね」

③つなぐ：早めに専門家に相談するよう促す

相手の意志を尊重しつつ、大学の学生何でも相談室や保健管理センター、医療機関(心療内科、精神科)につなぐためのサポートをしてください

④見守り：温かく寄り添いながら、じっくりと見守る

相談機関につないだ後も、必要があれば相談にのることを伝えてください



なお、【②話を聞く】では自分の考えを伝えるよりも、相手の苦しい心情に共感することを重視してください。否定されことなく話を聞いてくれる存在があるだけで、気持ちが楽になり、自分や抱えている問題を客観的に考えることができるようになります。【③つなぐ】でも本人の意志を無視して進めないことが大切です。その際、学生何でも相談室や保健管理センターへの相談には守秘義務があり、相談したことやその内容の秘密が守られることをお伝えいただくと相談しやすくなるのが期待されます。

学生の「いつもと違う」様子に気づいた時には、積極的な声かけを行っていただき、彼らの「命の門番」になっていただきますようお願いいたします。

●学生何でも相談室

(<https://www.otaru-uc.ac.jp/student/counseling/>)



●保健管理センター

(<https://www.otaru-uc.ac.jp/hsc/>)





親身に対応してくれたので心強かったです。さらに日常生活では大学のスポーツコースを活用してバレーボールを1年間続け、留学生やドイツ人学生と深く交流することができました。スポーツは言葉や国籍を超えて人をつなげてくれると、身をもって実感しました。

円安の影響でヨーロッパの物価は高めですが、野菜や果物など日本より安い食品もあったので、自炊をして節約していました。旅行は夜行バス・ hostel・空港泊を上手く活用し、費用を抑えながら色々な国を巡りました。

授業では学生全員が非常に積極的で、質問も活発でした。そんな周りの環境に影響され、次第に自分も積極的に発言できるようになりました。英語力については、渡航当初は聞き取りや語彙力に不安がありましたが、約半年を過ぎたあたりで飛躍的に向上し、今では全く問題なく英語で会話ができるようになりました。

この留学は私にとって人生で最も楽しく有意義な1年間になりました。もし留学に行くか迷っている方がいましたら、是非勇気を出してチャレンジしてみてください！



「聞くビジネススクール」 Audible Business School はじめました



2025年から発足したリカレント教育推進室では、ビジネススクールのMBA 課程以外にも多様なビジネスパーソンのための学びの機会の提供に力を入れています。その一環で、リカレント教育推進室では通勤通学の途中に気軽に、そしてすぐにビジネスに役立つ「聞くビジネススクール」として、YouTube ポッドキャストで音声教材“Audible Business School”を立ち上げました。最初のシリーズはマーケティングをテーマとし、本学のビジネススクールの猪口純路教授と関隆教准教授、商学部の長村知幸准教授3名が分担して台本を執筆しました。誌面のQRコードをかざせば、北海道文化放送(UHB)のアナウンサー2人の軽妙なトークで、マーケティングの基本的な視座、商品や事業の分析に役立つSTP やマーケティング・ミックス、製品ライフサイクルなどのマーケティングの基本的な知識をインプットできます。ぜひお手持ちのスマートフォンで聞いてみてください。

今後も Audible Business School では、ビジネス実務に役立つさまざまな領域のコンテンツを整備する予定です。また、本学の YouTube チャンネルでは大学紹介や卒業生の進路など、多様なコンテンツがあります。この機会にぜひチャンネル登録をお願いします。



北海道のどこにいても 生涯にわたり上質な学びに出会える

北海道国立大学機構(小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学)は、令和8年(2026年)4月1日付をもって、「一般社団法人 北海道ユニバーサル・ユニバーシティコンソーシアム(略称: HUUC)」を設立いたしました。

HUUCは、同機構が推進してきたUU構想を更に拡大させて、高等教育やリカレント教育を全道に提供する環境を整備し、生涯にわたる学び直しを支援するための組織です。

UU構想は、北海道が直面する人口減少や地域間の教育格差といった課題に対応し、「どこに住んでいても質の高い高等教育を受けられる環境」の実現を目指す構想です。オンライン教育と対面教育を組み合わせることで、進学や学び直しを諦めることなく、地域で暮らしながら学び続けられる教育基盤を構築します。

地方から若い世代が流出する要因の一つとして、教育環境への不安が挙げられます。特に子育て世代は、高校や大学への進学環境を重視する傾向があり、教育環境の充実は人口流出の抑制や地域への定住促進にもつながります。UU構想では、教育を地域づくりの基盤と位置づけ、大学・自治体・企業が連携して地域人材の育成と地域の活性化を推進します。

本構想は、次の三つのプラットフォームを柱としています。

①進学支援型プラットフォーム

地域で働きながら大学へ進学できる仕組みを整備し、自治体や企業による学費・修学支援を通じて、経済的・地理的な理由で進学を諦めていた方にも高等教育の機会を提供します。

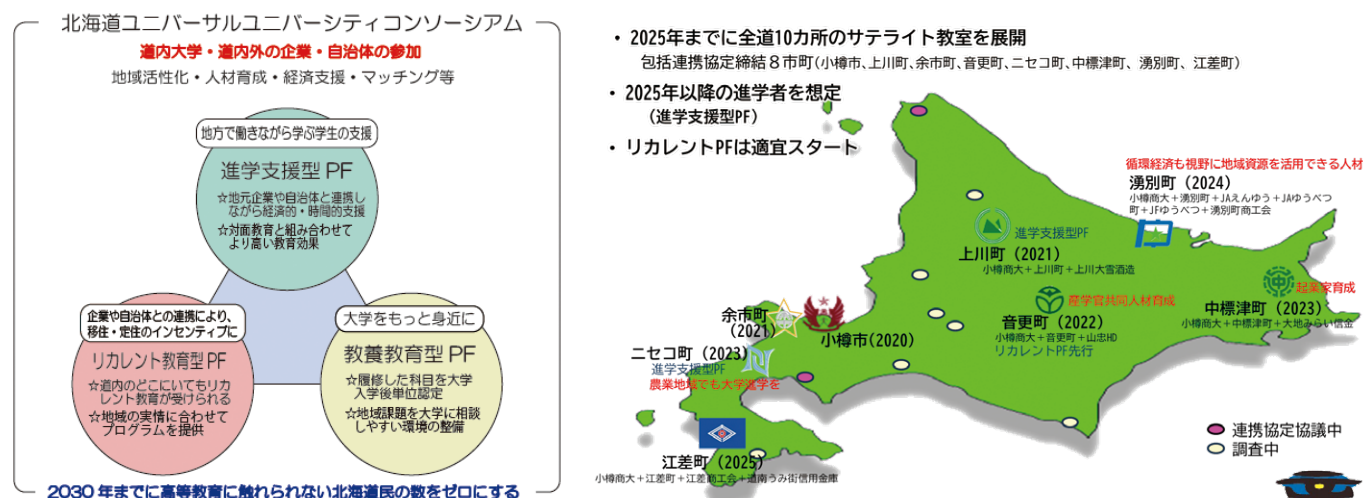
②リカレント教育型プラットフォーム

社会人を対象に、経営、データサイエンス、観光、医療、防災など地域ニーズに応じた学び直しの機会を提供し、地域企業の人材育成や産業競争力の向上に貢献します。

③教養教育型プラットフォーム

オンデマンド教材や単位認定制度を活用し、幅広い世代の道民が大学教育に触れる機会を提供するとともに、高校教育と大学教育をつなぐ学びの場を創出します。

これらの取組を地域で具体化するため、全道各地でローカルコンソーシアムの形成を進めています。現在は、小樽市、上川町、音更町、ニセコ町、中標津町、湧別町、江差町、余市町、稚内市などと包括連携協定を締結し、高校連携、リカレント教育、地域課題解決型プロジェクトなど、地域の特性を生かした取組を展開しています。また、サテライト教室を拠点として、地域に身近な学びの場の整備も進めています。



HUUC については右記 URL をご覧ください。 <https://huuc.or.jp/>



新任教員の紹介

①出身地 ②研究分野 ③担当授業科目 ④趣味
⑤商大に着任しての感想 ⑥商大生に期待すること

令和7年5月～令和8年4月に着任された、6名の教員の方々を紹介するよ！



経済学科 ^{ジャン ヤシ} JIANG Yaxi 准教授

- ①中国 吉林省長春市
- ②産業組織論、応用ミクロ経済学
- ③ビジネス経済学、実証研究入門
- ④スノーボードをはじめとする運動全般、SF 小説を読むこと
- ⑤静かで美しいキャンパスと、明るく前向きな学生の皆さんに出会えたことを大変うれしく感じています。
- ⑥商大生には、学びにも遊びにも全力で取り組み、充実した学生生活を送ってほしいと思います。Study hard, play hard.



企業法学科 ^{コ ヨンア} 高 影娥 准教授

- ①韓国・江原道春川市 ②民法(特に韓国法との比較研究)
- ③民法関連科目 ④読書、音楽鑑賞
- ⑤暑さが苦手なため、10年ぶりに北海道へ戻ることができ、大変嬉しく思います。歴史ある小樽商科大学で教育・研究に携われることを光栄に思います。小樽の美しい景色や落ち着いた環境の中で、充実した日々を過ごしています。
- ⑥大学時代は学業のみならず、さまざまなことに挑戦できる貴重な時期です。できるだけ多様な経験を積み、視野を広げてください。その中で、自分なりの関心や目標を見つけてほしいと思います。



アントレプレナーシップ専攻 ^{セキ タカ のり} 関 隆教 准教授

- ①北海道千歳市
- ②マーケティング
- ③マーケティング戦略、マーケティングI、ケーススタディIなど
- ④旅行
- ⑤商大卒業後、15年ぶりに戻ってきましたが、良い意味で「変わっていない」という印象です。
- ⑥自身がそうだったのですが、小樽商大は「自分の可能性を広げてくれる大学」です。在学中に色々なことに挑戦してみてください。



グローバル戦略推進センターリカレント教育推進室 ^{くろ さわ} 黒澤 あずさ 特任准教授

- ①東京都板橋区
- ②女性のキャリア形成支援、ダイバーシティ推進
- ③なし(ダイバーシティ関連のリカレント教育プログラムの企画・運営に従事)
- ④ミュージカル鑑賞、美術館巡り
- ⑤グローバルラウンジや図書館など、学内には学生が主体的に集える場が豊かに整っていると感じます。
- ⑥大学時代には、ぜひ道外や海外へ行動範囲を広げてほしいです。また、日々の生活で感じる「違和感」を表現してみてください。そこから新たな出会いや深い学びが始まります。



グローバル戦略推進センターリカレント教育推進室 ^{さい どう たけ ひこ} 齋藤 竹彦 特任准教授

- ①北海道札幌市
- ②事業承継
- ③なし(リカレント教育推進室に所属し、主に事業承継セミナーの企画・運営に従事)
- ④カラオケ、筋トレ
- ⑤ビジネスについて横断的に学べる環境、第一線で活躍する卒業生とのネットワークが羨ましい！
- ⑥恵まれた環境のなかでそのチャンスをぜひ活かし、これから先の豊かな人生の礎を築いてください。また、地域経済が抱える課題にもぜひ興味・関心を持ってください。



グローバル戦略推進センター IR 室 ^{ふじ い と も} 藤井 都百 准教授

- ①埼玉県三郷市
- ②大学の諸活動を表すデータの収集、分析、可視化手法と、その正確性・効率性
- ③なし
- ④旅行(学生の時に JR 北海道全線を乗車しました)
- ⑤正門から校舎までの坂道で季節の移ろいを感じるのが通勤の楽しみです。
- ⑥自分と違う視点を持つ仲間と積極的に意見交換し、視野を広げてください。